

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



遊びのなかでの感情体験：「いま・ここ」現在を生きる喜び

子ども教育学部 子ども教育学科教授・こどもケアセンター長 石橋由美

本学2号館のこどもケアセンターに地域子育て支援として、オープンスペース「いーぐる」を7月1日から開設しました。月曜～金曜まで（10：00～15：00）、就園前の0～3歳児の子どもとその保護者が一緒に遊ぶ場として利用できます。

子どもたちが好きな遊びを見つけることができるように、絵本、ままごと、ブロック、積木、型はめ、ボール遊び、輪投げ、滑り台などができるいくつかのコーナーがあります。また季節に合わせて、さりげなく花や草、実が飾られています。

好きな遊びが見つかる、そこが子どもの居場所になります。大好きなお月様の絵本を抱えて、食の講習会で家庭科調理室に行っているお母さんが戻ってくるのを泣かずに待っていた子。20か月児は他者の気持ちを理解し始めます。お母さんと再会した時のこぼれんばかりの笑顔。お月様の絵本は、これを一緒に見たお母さんの代わりだったのかもしれませんが。泣かずに待っていたのは、好きな絵本や遊びコーナーがある「いーぐる」がその子にとって居場所になっていたからでしょう。

お気に入りのプレイクッション（写真）の真ん中にあいている穴のなかにボールをころがし入れて、とうとう自分もその穴のなかに入ってしまった1歳児。ボールと一体になってしまったかのようです。今度は穴から顔を出して周囲の人に笑いかけます。「イナイイナイバア」をしているようです。

我を忘れて夢中になって遊んでいる子どもたちは、未来や過去でなく、現在を生きる喜びにあふれています。遊びのなかで体験されるおもしろいという感情は生きることの実感になっていくでしょう。本学科の学生が、生き生きと遊ぶ子どもの姿にふれながら、子どもの気持ちに共感できる教員・保育者として育っていくことを期待しています。



お気に入りのプレイクッション